

# 教 育 研 究 業 績

2026年5月1日

氏名 長野 麻子

学位：博士（音学）

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
音楽学、音楽教育学、絵本学	乳幼児の音楽教育、現代音楽、シュネーベル、絵本、子ども文化	
主要担当授業科目	基礎音楽Ⅰ、音楽演習A、保育指導法演習（総合表現）、子どもの文化と環境、保育指導法演習（言葉と表現）、子どもの芸術文化B、課題研究A・B	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
「基礎音楽Ⅰ」	2015年4月～現在	保育士資格・小学校教諭一種免許取得必修科目。乳幼児の音楽表現ならびに児童の音楽活動の指導に必要な楽典とピアノ、歌唱実技に関する教授を講義と演習により行っている。
「音楽演習A」	2015年4月～現在	保育士資格取得選択科目。乳幼児の音楽表現の指導に必要なピアノ、歌唱、器楽合奏の教授を演習により行っている。
「保育指導法演習（総合表現）」	2015年4月～現在	保育士資格・幼稚園教諭一種免許取得必修科目。乳幼児の表現における指導法の教授をわらべうた、手遊び、呼吸と声の表現遊び、楽器による音遊び、音楽劇などの演習により行っている。
「子どもの文化と環境」	2015年4月～現在	保育士資格取得選択科目。子どもを取り巻く文化と環境の特徴や問題について、伝承遊び、歌、絵本、紙芝居、おもちゃ、テレビ番組、自然体験などを例に挙げ、講義行っている。
「保育指導法演習（言葉と表現）」	2019年4月～現在	保育士資格・幼稚園教諭一種免許取得のための必修科目。乳幼児の言語の獲得と表現の指導法の教授を言葉かけ、歌いかけ、絵本読み聞かせ、紙芝居上演、言葉遊びなどの演習により行っている。
「子どもの芸術文化B」	2016年4月～現在	子ども学部卒業選択科目。子どもの芸術に関わるさまざまな表現活動のプログラムの指導法の教授を幼稚園園児たちとの対面による実践演習により行っている。
「課題研究A・B」	2015年4月～現在	子ども学部卒業必修科目。子ども学の研究法に基づき、音楽、表現、子どもの文化等の研究領域における研究および論文作成の教授を行っている。
2 作成した教科書、教材		
『すっすっはっはっこ・きゅ・う』	2010年11月17日	長野麻子作、長野ヒデ子絵、童心社刊の絵本で呼吸と声のコミュニケーションの楽しさ、大切さを描いている。「保育指導法演習（総合表現）」の教材として、呼吸と声の表現遊びとそのグループ発表において使用している。
『できた！うれしい！子どものうた』（カワイ出版）	2023年4月1日	味府美香、 <u>長野麻子</u> 編著、高木夏奈子、古山律子、甲斐万里子、二木秀幸著、市原俊明、片岡寛晶編曲、カワイ出版刊の子どもの歌の弾き歌いの楽譜集である。初心者効果的な学習に重点を置いた選曲と解説、編曲に基づき、「基礎音楽Ⅰ・Ⅱ」「音楽演習A・B」の教材として使用している。
『〈子ども学〉論集』	2023年11月10日	石黒万里子、青木研作、近藤清華編著、塙和明、永井聖二、富山尚子、那須野三津子、 <u>長野麻子</u> 他著、学文社刊。東京成徳大学子ども学部教員による子ども学の基礎と研究法を複数の領域から示した教科書として、「子ども学入門」他子供学部の授業で使用している。
3 教育上の能力に関する大学等の評価		特記事項なし
4 実務の経験を有する者についての特記事項		
親子で楽しむ土曜講座	2009年4月～2015年3月	立教女学院短期大学幼児教育研究所主催の地域のための公開講座。成人のための歌唱講座や親子のふれあい講座などを企画、運営し、講師を務めた。

保育者のためのステップアップ講座	2009年4月～2015年3月	立教女学院短期大学幼児教育研究所主催の保育者のための研修会。企画および音楽のワークショップについての分科会の講師を務めた。
立教女学院短期大学公開講座	2010年2月～2012年2月	立教女学院短期大学主催の地域のための公開講座。音楽のテーマに基づき、レクチャーコンサート、親子のふれあい講座を企画し、講師を務めた。
成徳ミニコンサート	2015年4月～現在	東京成徳大学子ども学部主催のコンサート。学内学生および教職員を対象に、毎年芸術コンサートの企画、運営を行っている。2021年のコンサートでは絵本のコンサートを企画、実施し、朗読者としての出演も行った。
東京成徳大学子ども学部手作り絵本コンクール	2015年4月～2019年3月	東京成徳大学子ども学部主催の絵本コンクール。入試広報の一環として、高校生および本学在校生を対象とした手作り絵本コンクールの企画、運営、審査、絵本教室の講師を務めた。
東京都板橋区児童館における子育て支援活動	2016年5月～2019年	東京都板橋区の要請により、東京成徳大学子ども学部学生とともに板橋区主催「わくわくフェスタ」へのスタッフとしての参加や板橋区児童館における子育て支援のためのイベント活動の企画と実施を行った。
東京成徳大学子ども学部公開講座	2021年11月, 2023年10月～現在	東京成徳大学子ども学部主催の市民を対象とした公開講座。2021年に「何気ない日常から生まれる絵本と紙芝居」と題し、長野ヒデ子とともに講師を務め、絵本と紙芝居の創作、読み聞かせや上演の実践に関する講義を行った（オンライン配信）。2023年より毎年、乳幼児と保護者を対象とした講座「トンパンボン！」を味府美香本学子ども学部教授とともに企画し、打楽器との触れ合いを中心とした遊びを展開している。

職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項

事項	年月日	概要
1 資格, 免許 中学校教諭専修免許（音楽, 中専第 10621号）	1998年3月	大学院修士課程修了者に与えられる中学校教諭専修免許（音楽）。
高等学校教諭専修免許（音楽, 高専第 10739号）	1998年3月	大学院修士課程修了者に与えられる高等学校教諭専修免許（音楽）。
2 特許等		なし
3 実務の経験を有する者についての特記事項 東京成徳大学図書館運営委員	2015年4月～2026年3月	図書の選定、推薦、図書館だよりの発行などの業務を行った。
東京成徳大学子ども学部総務委員長	2015年4月～2019年3月	子ども学部行事の成徳ミニコンサートの企画、運営、子ども学部公開講座の運営を行った。
東京成徳大学子ども学部総務委員長	2019年4月～2026年3月	子ども学部行事、公開講座、紀要、学年別研修、海外研修などの事業を統括した。
東京成徳大学子ども学部教務委員	2026年4月～現在	子ども学部の教務および学修支援に関わる運営を行っている。

研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書) 1 「記譜法」『音の百科事典』	共著	2006年1月	丸善出版, 338-346頁	岩宮眞一郎、大里俊晴、酒井博之、 <u>長野麻子</u> ほか 107 名著。音に関する事項を科学的、社会的、文化的側面から網羅し、解説した事典。「記譜法」の項目を担当し、東西の記譜法を譜例とともに歴史的に概観し、解説した。338-346 頁担当。

2『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』	共著	2010年11月	童心社	長野麻子作、長野ヒデ子絵。音楽と身体の関係に着目し、呼吸と声の表現をテーマに創作した絵本。全文を担当。言葉と絵の聴覚ならびに視覚的イメージから読者に様々な形式や感情を伴う呼吸や発声を促し、呼吸と音声の表現およびコミュニケーションの喜びと豊かさを伝えている。
3『子どもの育ちと保育：環境・発達・かかわりを考える』	共著	2015年9月	金子書房	牧野カツ子編、本田和子、大久保忠旦、内田伸子、長野麻子ほか5名著。5章「ことばと呼吸と音楽」（101-120頁）を担当。宇都宮共和大学主催公開講座の記録。ことば、呼吸、音楽の相互関係を明らかにし、それらの表現とコミュニケーションの意義を実践とともに示した。
4『まんまん ぱっ!』	共著	2016年11月	童心社	長野麻子作、長野ヒデ子絵。乳児との音声コミュニケーションによる触れ合いをテーマにした絵本。全文を担当。喃語などの音楽的要素を備えた乳児の言語を絵の視覚的イメージとともに乳児に語り聞かせ、共感と表現を促す。
5『不思議的呼吸』	共著	2018年4月	廣西師範大学出版社, 中国	長野麻子作、長野ヒデ子絵、彭懿、周龍梅訳。自著『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』（2010年、童心社）の中国語による翻訳版。
6『すっすっはっはっ しんこきゅう』	共著	2019年4月	童心社	長野麻子作、長野ヒデ子絵。自著『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』（2010年、童心社）の紙芝居。全脚本を担当。新学期や新生活の始まりに、健全な生活が送れるように、呼吸および声、感情表現の大切さを実践とともに伝えている。参加型紙芝居として、演者が観客に呼吸や発声を促し、共感を高める。
7『できた！うれしい！子どものうた～3つのポイントで上手くなる』	共著	2023年3月	カワイ出版	味府美香、長野麻子編著、高木夏奈子、古山律子、甲斐万里子、二木秀幸著、市原俊明、片岡寛晶編曲。全ページ編纂および「はじめに」「本書の使い方」「ちょうちょ」ほか6曲の解説執筆担当。子どもの歌の弾き歌い指導の研究成果を実用テキストとして編纂した。楽曲ごとに練習ポイントを明記した解説ページを設け、初心者が学びやすい内容とした。
8『〈子ども学〉論集』	共著	2023年11月	学文社	石黒万里子、青木研作、近藤清華編著、塙和明、永井聖二、富山尚子、那須野三津子、長野麻子他3名著。第2部第4章「見える音楽としての絵本-私の絵本の創作から-」（60-77頁）を担当。東京成徳大学子ども学部教員による子ども学の基礎と研究法を複数の領域から示した教科書として、担当章では絵本と音楽の双方の領域における研究を示した。
(学術論文) 1『シュネーベルにおける「伝統」の問題—《TRADITION》、《RE-VISIONEN》シリーズの1970年代の作品を中心に—』	単著	1998年3月	東京芸術大学 修士論文	ドイツの現代音楽の作曲家シュネーベルの作品にみる「伝統」の意義について、作曲家の言説と作品分析、ポストモダンの面から検証した。
2「シュネーベルにおける『伝統』の問題—《TRADITION》、《RE-VISIONEN》シリーズの成立と理念—」	単著	2000年8月	『音楽学』（日本音楽学会） 第46巻1号、54-70頁	ドイツの現代音楽の作曲家シュネーベルの作品を論じた修士論文に基づき、作品の成立背景と理念を作品分析とともにより詳細に論じた。

3『音楽と身体—シュネーベルの創作における音声と身振りの考察—』	単著	2007年3月	東京芸術大学 博士論文	シュネーベルの創作の中心である身体表現の音楽的意義について、作曲家の言説と主要作品の分析、神学および歴史哲学の面から検証した。
4「子育て支援としてのわらべうた—指導の意義と成果 未就園児親子を対象とした実践報告」	共著	2010年1月	『聖公会保育』（聖公会保育連盟）第16号, 11-22頁	代表執筆者：齊木美紀子、共同執筆者：今川恭子、長野麻子。立教女学院短期大学幼児教育研究所主催の「土曜講座」におけるわらべうたの実践を受講者アンケートの結果とともに報告し、指導の意義と成果を示した。21-22頁担当。
5「歌うとは何か？—幼児の歌唱教育における問題点と提言—」	単著	2010年2月	『立教女学院短期大学紀要』第41号, 37-50頁	保育現場を中心とした慣習的な歌唱のあり方に疑問を呈し、歌唱の意味を本質から捉え直すと同時に、新たな提言として呼吸や声の自由な表現の可能性と意義を実践報告とともに示した。
6「音楽の言葉で表現すること—保育者養成における『表現』の取り組み—」	単著	2011年2月	『立教女学院短期大学紀要』第42号, 83-99頁	保育士・教職科目「保育内容研究（表現）」に求められる指導内容と「表現」の意味を音楽独自の言語の視点から、実践報告とともに提言した。
7「東京成徳大学子ども学部地域の子育て支援の試み—板橋区児童館での活動を通して—」	共著	2017年3月	『東京成徳大学子ども学部紀要』第6号, 33-53頁	代表執筆者：長野麻子、共同執筆者：岡千春。東京成徳大学子ども学部学生とともに実施した東京都板橋区児童館における子育て支援プログラムの理念および実践計画とその成果を、参加者アンケートの結果報告とともに示した。33-42、51-53頁担当。
8「子どもと自然—いわむらかずおの『14ひきのシリーズ』と絵本の丘美術館についての考察—第1部：『14ひきのシリーズ』のテーマ」	単著	2017年12月	『東京成徳大学子ども学部紀要』第7号, 25-48頁	いわむらかずおの絵本『14ひきのシリーズ』とその主な創作舞台である「いわむらかずお絵本の丘美術館」に着目し、絵本を媒介に自然体験が子どもの成長にもたらす意義を明らかにする研究の第1部。『14ひきのシリーズ』において作者がテーマとする「家族」と「自然」の意味およびその背景を、作者の言説に基づいて検証した。
9「ピアノ初心者のための子どもの歌弾き歌い指導法」	共著	2022年3月	『東京成徳大学子ども学部紀要』第12号, 15-32頁	代表執筆者：長野麻子、共同執筆者：青山真弓、上野彩子、榎本太麻子、高橋淳子。保育士・教員養成課程におけるピアノ初心者のための子どもの歌弾き歌い指導法を楽曲の例示とともにピアノ伴奏と歌唱の両側面から提案し、効率的かつ効果的な学習成果を目指した。15-18、31-32頁担当。
10「「さわる」ことがもたらす打楽器による多感覚の音遊びの試み—乳幼児と保護者のための遊びの広場「トンパンポン！」—」	共著	2025年3月	『東京成徳大学子ども学部紀要』第15号, 13-20頁	代表執筆者：長野麻子、共同執筆者：味府美香。2023年度子ども学部公開講座「トンパンポン！つくってあそぼう さわってならそう」の参加者のアンケート回答の分析と考察を行い、乳幼児の多感覚への働きかけについて今後の課題をとともに論じた。13、15-16、19-20頁担当。
11「和太鼓が乳幼児にもたらす感覚と表現に関する—考察—乳幼児と保護者のための遊びの広場「おまつりわっしょい トンパンポン！」—」	共著	2026年3月	『東京成徳大学子ども学部紀要』第16号, 59~68頁	代表執筆者：味府美香、共同執筆者：長野麻子。2024年度子ども学部公開講座「おまつりわっしょい トンパンポン！」のねらい、和太鼓の活用の目的と意義、乳幼児の和太鼓との関わり方、参加者のアンケート回答の分析と考察の結果を今後の課題をとともに論じた。59-60、61-62、67-68頁担当。
(その他：①演奏) 1 シュネーベル 《Maulwerke》 《Körper-Sprache》	共著	2010年12月	『eX.15 シュネーベル研究』eX. 主催	シュネーベルの生誕80歳を記念し、企画、監修、解説を手がけ、自らも出演した演奏会。足立智美、田井智紀、中川俊郎、山根

			(東京)	明季子とともに呼吸・音声および身体表現による作品を上演した。
2 《花》《おぼろ月夜》《この道》 《待ちぼうけ》他全 14 曲	共著	2013 年 4 月	『えほんの丘 ちいさな音楽 会』いわむら かずお絵本の 丘美術館主催 (栃木)	いわむらかずお絵本の丘美術館の音楽会 で、池田直樹(バリトン)、池田早苗(ソプ ラノ)による日本・世界歌曲の独唱および 二重唱のピアノ伴奏を行った。
3 《みわたせば》《浜辺の歌》《ぞ うさん》《やぎさんゆうびん》他 全 17 曲	共著	2014 年 4 月	『えほんの丘 ちいさな音楽 会』いわむら かずお絵本の 丘美術館主催 (栃木)	いわむらかずお絵本の丘美術館の音楽会 で、池田直樹(バリトン)、池田早苗(ソプ ラノ)による日本・世界歌曲の独唱および 二重唱のピアノ伴奏を行った。
4 《14 ひきのあさごはん》(朗 読)	共著	2021 年 11 月	『成徳ミニコ ンサート《1 4 ひきのあさ ごはん》～ピ アノ連弾と朗 読～』東京成 徳大学子ども 学部主催(東 京)	東京成徳大学子ども学部主催の成徳ミニコ ンサートにて、企画、出演を行った。いわ むらかずおの著書『14 ひきのあさごはん』 に基づくピアノ連弾作品《14 ひきのあさ ごはん》(寺島尚彦作曲)の演奏(連弾:佐 藤季里・高橋淳子)に合わせて、『14 ひき のあさごはん』の朗読を行った。
5 《まんまん ぱっ!》(朗読・即 興演奏) 《おつきさまひとつずつ》(朗 読・歌)	共著	2025 年 8 月	『万物照応: 月と星の音 楽』アンサン ブル東風こっ ちこっちツア ーズ vol.4 in 西東京 ども コンサート,メ インコンサ ート,アンサン ブル東風主催 (東京)	アンサンブル東風の公演にて、自著『まん まん ぱっ!』をヴィオラ(中島久美)、パ ーカッション(稲野珠緒)とともに朗読を 行い、即興演奏として発表した。また長野 ヒデ子著書『おつきさまひとつずつ』に基 づく器楽アンサンブルと朗読のための同名 の作品(田村文生作曲)の演奏において、 朗読と歌を担当した。
(その他:②学会発表)				
1 「シュネーベルにおける『伝 統』の問題—《TRADITION》、 《RE-VISIONEN》シリーズの 1970 年代の作品を中心に—」	単著	1998 年 4 月	日本音楽学会 関東支部第269 回例会(東 京)	(口頭発表)学会推薦による修士論文の口 頭発表。ドイツの現代音楽の作曲家シュネ ーベルの作品にみる「伝統」の意義につい て、作曲家の言説と作品分析、ポストモダ ンの面から検証した。
2 「音楽における身体の意義—D. シュネーベルの《Maulwerke》と 《Körper-Sprache》」	単著	2005 年 10 月	日本音楽学会 第 56 回全国大 会(東京)	(口頭発表)博士論文のための研究の中間 報告としてシュネーベルの音楽劇の主要作 品を分析し、身体表現の意義を考察した。
3 「シュネーベルの音楽思想—音 楽劇の創作にみる身体の表現を めぐって」	単著	2008 年 10 月	日本音楽学会 第 59 回全国大 会(東京)	(口頭発表)博士論文のための研究の中間 報告としてシュネーベルの音楽劇における 身体表現の根底にある作曲家の思想を考察 した。
4 「歌うとは?—幼児教育におけ る歌唱とその指導について—」	単著	2010 年 5 月	日本保育学会 第 63 回大会 (愛媛)	(ポスター発表)幼児の歌唱教育を見直 し、歌唱の原点を呼吸や声の自由な表現に 見出す指導法を実践報告とともに提言し た。
5 「シュネーベルの《マウルヴェ ルケ Maulwerke》とその教育的価 値について—非伝統的歌唱教育 の視点から—」	単著	2010 年 9 月	日本音楽教育 学会第 41 回大 会(埼玉)	(口頭発表)呼吸と声、身体の身振りのた めのシュネーベルの音楽劇を教育的視点か ら捉え直し、幼児の歌唱教育に応用する方 法を提言した。
6 「シュネーベル《声のために (…ミサは終われり)》再考— 現代音楽における歴史と宗教の 問い—」	単著	2010 年 11 月	日本音楽学会 第 61 回全国大 会(愛知)	(口頭発表)シュネーベルの宗教作品とそ の音楽思想を世俗化の神学と歴史哲学との 関係から分析、考察した。

7「呼吸する絵本—『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』制作プロセス—」	単著	2011年5月	日本保育学会第64回大会（東京）	（ポスター発表）自著『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』が意図する呼吸と音声表現およびコミュニケーションの意義を制作プロセスとともに示した。
8「絵本をいかに読むか？—『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』における呼吸と声の意味—」	単著	2011年6月	絵本学会第14回大会（東京）	（口頭発表）自著『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』における呼吸と声の表現の意図および読み方を解説し、音楽的アプローチに基づく絵本の位置付けを示した。
9「赤ちゃん絵本に求められるものとは？—『まんまん ぱっ!』の制作現場から—」	単著	2017年5月	絵本学会第20回大会（神奈川県）	（口頭発表）乳児との音声コミュニケーションをテーマにした自著『まんまん ぱっ!』の意図と赤ちゃん絵本としての意義を乳児の言葉と音楽、視覚の関係性から示した。
10「絵本から幼年童話へ」	共著	2017年5月	絵本学会第20回大会（神奈川県）	（口頭発表）日本児童文学学会、日本イギリス児童文学会、絵本学会の合同企画によるラウンドテーブル。佐々木由美子、竹内美紀、藤本朝巳、長野ヒデ子とともに、幼年童話の特質と重要性について問題提起と意見交換を行った。
11「絵本から生まれる音楽—子どもの表現活動における呼吸や声の多様なコミュニケーションを求めて」	単著	2017年10月	音楽教育学会第48回大会（愛知）	（ポスター発表）呼吸や声の表現が絵本の視覚的表現と媒体を伴うことにより、多様なコミュニケーション形態を生み出す可能性と意義を自著『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』と『まんまん ぱっ!』の制作と読み聞かせの実践から示した。
12「『14ひきのシリーズ』のテーマと原点へのアプローチ—いわむらかずおが伝えるものとは—」	単著	2018年6月	絵本学会第21回大会（北海道）	（口頭発表）いわむらかずおの絵本『14ひきのシリーズ』のテーマである「家族」と「自然」に着目し、それらの意味とともに作者の幼少期の体験と創作の関連性を明らかにした。
13「保育士・教員養成課程のための弾き歌いの教材開発に関する研究-ピアノ初心者の学習法と指導法に焦点をあてて-」	共著	2023年10月	第54回音楽教育学会大会（青森）	（ポスター発表）代表発表者：長野麻子、共同発表者：味府美香、古山律子、甲斐万里子。子どもの歌の弾き歌いのテキスト『できた！うれしい！子どものうた～3つのポイントで上手くなる』の教材開発の意図、方法、テキストの特徴を図表とともに明らかにした。
14「「さわる」ことがもたらす打楽器による多感覚の音遊びの試み—乳幼児と保護者のための遊びの広場「トンパンボン！」より—」	共著	2024年10月	第55回音楽教育学会大会（東京）	（ポスター発表）代表発表者：長野麻子、共同発表者：味府美香。2023年度子ども学部公開講座「トンパンボン！つくってあそぼう さわってならそう」の参加者のアンケート回答の分析と考察の結果を今後の課題をとともに明らかにした。
15「和太鼓が乳幼児にもたらす感覚と表現：乳幼児と保護者のための遊びの広場「おまつりわっしょい トンパンボン！」	共著	2025年11月	第55回音楽教育学会大会（長崎）	（口頭発表）代表発表者：長野麻子、共同発表者：味府美香。2024年度子ども学部公開講座「おまつりわっしょい トンパンボン！」のねらい、和太鼓の活用目的と意義、乳幼児の和太鼓との関わり方、参加者のアンケート回答の分析と考察の結果を今後の課題をとともに明らかにした。
（その他：③報告）				
1「土曜講座 2010 年度活動報告」	単著	2010年3月	『立教女学院短期大学幼児教育研究所紀要』第12号、38-43頁	地域のための歌唱講座および親子のふれあい講座の年間活動報告を行った。
2「土曜講座 2011 年度活動報告」	単著	2011年3月	『立教女学院短期大学幼児教育研究所紀要』第13号、38-43頁	地域のための親子のふれあい講座の年間活動報告を行った。

			要』第13号, 35-43頁	
3「土曜講座報告 2014 年度活動報告」	単著	2015 年 3 月	『立教女学院短期大学幼児教育研究所紀要』第 16 号	地域のための親子のふれあい講座の年間活動報告を行った。
4「音楽は感情の言葉～呼吸と声で表現しよう」オルフ音楽教育研究会例会	単著	2018 年 12 月	『音と動きの研究』第 46 号, 56-57 頁	オルフ音楽教育研究会の 2018 年度春例会で実施した呼吸と声の表現についての長野麻子のワークショップの報告を行った。
5「何気ない日常から生まれる絵本と紙芝居」	共著	2023 年 3 月	『東京成徳大学子ども学部紀要』第 13 号, 95-110 頁	長野麻子、長野ヒデ子著。長野ヒデ子とともに講師を務めた子ども学部公開講座（オンライン配信）の講義録。写真、絵本と紙芝居の画像を豊富に盛り込み、自著を中心とした絵本と紙芝居の創作、読み聞かせ・上演の方法について対談形式で記した。全頁執筆担当。
6「トンパンボン！つくってあそぼう さわってならそう」	共著	2024 年 3 月	『東京成徳大学子ども学部紀要』第 14 号, 75-78 頁	長野麻子、味府美香、藤田寿伸著。講師を担当した 2023 年度子ども学部公開講座の講義録。乳幼児と保護者のための公開講座を開設したことの意義、触覚を中心とする多感覚への働きかけに関する表現活動の意図を述べた。75, 78 頁執筆担当。
7「長野ヒデ子×長野麻子 対談講演会(第 35 回新美南吉顕彰講演会) お母さんと赤ちゃんの世界：南吉の詩から生まれた絵本『てんごく』」	共著	2025 年 3 月	『新美南吉記念館研究紀要』31 号, 1-24 頁	長野ヒデ子、長野麻子著。長野ヒデ子と講師を務めた新美南吉記念館主催の講演会の講義録。新美南吉の詩に基づく長野ヒデ子作の絵本『てんごく』（のら書店、2023 年）に見る母子関係を出発点に、長野ヒデ子、長野麻子の著書における母子の関係性とその表現について記した。全頁執筆担当。
8「おまつりわっしょい トンパンボン！」	共著	2025 年 3 月	『東京成徳大学子ども学部紀要』第 15 号, 2025 年 3 月, 85-88 頁	長野麻子、味府美香、羽岡佳子著。講師を担当した 2024 年度子ども学部公開講座の講義録。未就学児とその保護者を対象に和太鼓を用いた音楽と身体表現活動のねらいと活動内容について報告した。85-88 頁執筆担当。
9「おまつりわっしょい トンパンボン！2025」	共著	2026 年 3 月	『東京成徳大学子ども学部紀要』第 16 号, 2026 年 3 月, 143-145 頁	長野麻子、味府美香、羽岡佳子著。講師を担当した 2025 年度子ども学部公開講座の講義録。未就学児とその保護者を対象に和太鼓を用いた音楽と身体表現活動のねらいと活動内容について、前年度の実施内容との比較において報告した。143-145 頁執筆担当。
(その他：④雑誌記事)				
1「いわむらかずお絵本づくり 50 年『とがり山のぼうけん』を語る」	単著	2020 年 8 月	『絵本 BOOKEND』絵本学会, 66-75 頁	絵本作家いわむらかずおのデビュー 50 周年にちなみに、代表作の一つである長編絵本『とがり山のぼうけん』の創作についていわむらかずおにインタビューを行い、記事にまとめた。
2「声は呼吸から生まれる」	単著	2021 年 6 月	『紙芝居文化ネットワーク』第 72 号, 付録 1 頁	紙芝居文化推進協議会主催 21 世紀紙芝居学校で行った自著の絵本の読み聞かせ、紙芝居の上演とそれらにまつわる呼吸、声、言葉の表現についての講演内容を文章にまとめた。
(その他：⑤演奏会プログラムノート)				
1「シュネーベル《ベートーヴェン・シンフォニー》」「カーゲル《フィナーレ》」	単著	2004 年 2 月	『アンサンブル東風第5回定期演奏会—え	室内管弦楽団アンサンブル東風のベートーヴェン・オマーージュを掲げた演奏会の曲目解説。ベートーヴェンの作品をモチーフや

			っ、ベートーヴェン!? —』プログラム、2-3頁	テーマにした現代音楽作品の特徴について述べた。
2 「ゴープ 《ワイマール》」「メノッティ 《電話》」	単著	2005年2月	『アンサンブル東風第6回定期演奏会—こえ・うた・オペラ—』プログラム、2頁	現代音楽の声乐および舞台作品を特集した演奏会の曲目解説。ゴープの日本初演作品《ワイマール》とメノッティのオペラ作品の特徴について述べた。
3 「シュニトケ 《ディアローグ》」「リゲティ 《ハンブルク協奏曲》」「クセナキス 《タレイン》」	単著	2007年2月	『アンサンブル東風第8回定期演奏会—アンサンブルの妙技—』プログラム、2頁	現代音楽の器楽の技巧を特集した演奏会の曲目解説。シュニトケ、リゲティ、クセナキスの作品の特徴について述べた。
4 「バッハ (編: ヴェーベルン) 6声のリチェルカーレ〜『音楽の捧げもの』より」 「シュネーベル 《ワーグナー牧歌》」	単著	2010年2月	『アンサンブル東風第11回定期演奏会—生まれかわるクラシック〜バッハ・モーツァルト・ワーグナー—』プログラム、3-4頁	クラシック作品を編曲した現代音楽を特集した演奏会の曲目解説。ヴェーベルンとシュネーベルの作品の特徴について述べた。
5 「シュネーベル 《réactions》」「シュネーベル 《nostalgie》」「シュネーベ 《Maulwerke》」「シュネーベル 《Körper-Sprache》」「シュネーベル 《Fünf Inventionen》」「シュネーベル 《Haydn-Destillate》」	単著	2010年12月	『eX.15 シュネーベル研究』プログラム、4-9頁	シュネーベルの生誕80年を記念し、自ら監修、出演を行った演奏会の曲目解説。シュネーベルの音声や身振りのための音楽劇、器楽作品を分析し、特徴について述べた。
6 「マヌエル・デ・ファリャ: ピアノと5人の奏者のためのコンチェルト」	単著	2012年2月	『アンサンブル東風第13回定期演奏会—スペイン音楽の潮流—』プログラム、3頁	スペインの現代音楽を特集した演奏会の曲目解説。ファリャのピアノコンチェルトの特徴について述べた。
7 「ファニー・メンデルスゾーン=ヘンゼル 《5月の夜》《新しい恋、新しい人生》 《南へ》」「クララ・シューマン 《なぜ他の人にたずねるの》《美しさのゆえに愛するのなら》《私は暗い夢の中に立っていた》」 「アルマ・マーラー 《静かな夢》 《なま温かい夏の夜》《私の父の庭に》」「イザベル・ムンドリー 《ノン・ムジュレ〜ルイ・クーブランと》」	単著	2013年2月	『アンサンブル東風第14回定期演奏会—作曲家として女性として—』プログラム、2-4頁	19世紀から20世紀の女性作曲家の作品を特集した演奏会の曲目解説。ファニー・メンデルスゾーン=ヘンゼル、クララ・シューマン、アルマ・マーラーの歌曲、イザベル・ムンドリーの管弦楽曲の特徴について述べた。
8 「ジョージ・ガーシュウィン: 子守歌」「ダリウス・ミヨー: 屋根の上の牛」	単著	2014年2月	『アンサンブル東風第15回定期演奏会—ジャズ、タンゴ、そして…—』プログラム、2-3頁	ジャズ、タンゴと現代音楽のコラボレーションを特集した演奏会の曲目解説。ミヨー、ガーシュウィンの作品の特徴について述べた。
9 「シュネーベル: シューベル	単著	2015年1月	『月刊都響1・	東京都交響楽団定期演奏会「川島素晴、シ

ト・ファンタジー」「カーゲル：ブローケン・コード」			2月合併号』18-20頁	ユネーベル、カーゲル」のための曲目解説。シュネーベル、カーゲルのオーケストラ作品の成立や特徴について述べた。
10「ルチアーノ・ベリオ《作品番号第獣番》」	単著	2015年2月	『アンサンブル東風第16回定期演奏会—幽玄なる世界へのいざない』プログラム, 2頁	文学に基づく現代音楽を特集した演奏会の曲目解説。ベリオのテキストつきの木管五重奏曲の特徴について述べた。
11「ジャック・イベール《木管五重奏のための3つの作品》」「ジャック・イベール《ディヴェルティスマン》」	単著	2016年2月	『アンサンブル東風第17回定期演奏会—舞あそぶ音に』プログラム, 2-3頁	舞踊とのコラボレーションによる現代音楽を特集した演奏会の曲目解説。イベールの2つの室内楽曲の特徴について述べた。
12「ダリウス・ミヨー：世界の創造」ダリウス・ミヨー：屋根の上の牛」「カールハインツ・シュトックハウゼン：ツァイトマーセ」「カールハインツ・シュトックハウゼン：コントラプンクテ」	単著	2017年3月	『アンサンブル東風第18回定期演奏会—時代の潮流見ミヨーとシュトックハウゼン』プログラム, 3-6頁	20世紀フランスとドイツの現代音楽の作曲家ミヨーとシュトックハウゼンを特集した演奏会の曲目解説。両者の器楽作品特徴について述べた。
13「モデスト・ムソルグスキー／ジュリアン・ユー：展覧会の絵」「パウル・ヒンデミット：室内音楽第1番 Op. 24-1」	単著	2018年2月	『アンサンブル東風第19回定期演奏会—彩りの音へ』プログラム, 3-5頁	現代音楽の色彩的表現を特集した演奏会の曲目解説。ジュリアン・ユーの《展覧会の絵》とヒンデミットの室内楽曲の特徴について述べた。
14「シュネーベル：変ロ長調五重奏曲」「四戸世紀さんに聞く『ベルリンの松下 功』」	単著	2020年2月	『アンサンブル東風第21回定期演奏会—ベルリンの松下功』プログラム, 3頁, 7-10頁	作曲家松下功のベルリン時代を特集した定期演奏会の曲目解説。松下に所縁のある作曲家シュネーベルの室内楽作品の特徴について解説した。またベルリン留学時代の松下功について、クラリネット奏者の四戸世紀に行ったインタビューをまとめた。
15「モーツァルト《フィガロの結婚》」「ジャゾット《アルビノーニのアダージョ》」「松下功《インターシュテラー I (星の狭間に)》」「マスカーニ 歌劇《カバレリア・ルスティカーナ》より間奏曲」「レハール喜歌劇《メリー・ウィドウ》よりワルツ」「ボロディン 歌劇《イーゴリ公》よりダッタン人の踊り」「松下 功《平和ソング》より『元素わたし』」	単著	2020年11月	『第20回仏教音楽祭 Buddhaspel パイプオルガンの夕べ』プログラム, 築地本願寺・仏教伝道協会, 11頁.	築地本願寺パイプオルガン上納50周年を記念し開催された演奏会の曲目解説。クラシックから松下功の現代音楽までの7作品の特徴について述べた。
16「アンサンブル東風の25年の軌跡」	単著	2024年2月	『アンサンブル東風結成25周年記念公演』プログラム, 5頁	室内楽団のアンサンブル東風の25周年を振り返り、活動内容と楽団の特色について述べた。
17「長野麻子《まんまんぱっ!》」	単著	2025年8月	『万物照応：月と星の音楽』アンサンブル東風こっちこっちツアー vol. 4 in	自著の絵本『まんまんぱっ!』を乳児の言葉と音楽の関係から解説し、表現の意図を述べた。

			西東京 子ども コンサートプ ログラム, 2 頁	
(その他: ⑤書評)				
1 「絵本と一緒に呼吸をしよう」	単著	2010 年 12 月	『母のひろ ば』(童心 社) 第559号, 3頁	新刊紹介として自著『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』の内容と特徴を紹介した。
2 「新刊紹介: 『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』」	単著	2012 年 3 月	『日本音楽教 育学会ニュー スレター』第 43号, 6-7 頁	新刊紹介として自著『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』の内容と特徴を紹介した。
3 「名作誕生エピソード 絵本の 生い立ち: 『まんまん ぱっ!』」	単著	2017 年 8 月	『1・2・3歳』 秋号(赤ちゃ んとママ社) 第151巻, 37頁	自著『まんまん ぱっ!』の制作プロセスと 著者の意図を述べた。
4 「『おつきさまひとつづつ』の ちいさいあこちゃん」	単著	2019 年 9 月	『母のひろ ば』(童心 社) 第665号, 7 頁	長野ヒデ子著『おつきさまひとつづつ』に みる母と幼い娘の会話の本質について批評 を行った。
5 「絵本のまにまに」	単著	2023 年 12 月	『絵本BOOKEND 2023』(絵本 学会) 61頁	絵本作家長野ヒデ子の同名のエッセイ集か ら読み取れる絵本作家としての生き方と作 品を解説し、批評した。
(その他: ⑥講演会・ワークシ ョップ・公開講座講師)				
1 『音の絵を描こう』子ども文化 サマースクール美術創作	共著	2007 年 8 月	愛媛県教育委 員会主催(愛 媛)	音から連想される色や形、またはその逆 における表現を愛媛県の小学生たちに長野 ヒデ子と共同で指導した。
2 『アジア作曲家の今』アンサン ブル東風第 10 回記念定期演奏会 プレトーク	共著	2009 年 2 月	アンサンブル 東風主催(東 京)	アジアの現代音楽と作曲家をテーマにミヤ ンマーの作曲家マウンマウン・ゾーティエ とハーブ奏者ザーザー・ウィン・マウンと 対談した。
3 『仮面行列—音のワーク』	単著	2009 年 8 月	風吹きからす 主催(熊本)	熊本県山鹿市の小学生たちと制作した仮面 とともに、オリジナルのかけ声や音楽を作 り、町へ出て仮面行列を行った。
4 『はじまりは歌—体と心をと きはなして—』	単著	2009 年 9 月	目黒幼稚園主 催(東京)	保育者の研修会として、歌唱をテーマに呼 吸や声の大切さを、実践を交えて講演し た。
5 『愛唱歌を歌いましょう—音楽 の楽しみ』土曜講座	共著	2009 年 9 月	立教女学院短 期大学幼児教 育研究所主催 (東京)	成人向けの歌唱講座として、まど・みちお 生誕 100 歳を記念し、『ぞうさん』『やぎさ んゆうびん』などを解説、指導した。
6 『親子の教室—0、1、2、3 歳と ともに』土曜講座	共著	2009 年 10 月	立教女学院短 期大学幼児教 育研究所主催 (東京)	乳幼児の親子講座として、手遊び、わらべ うたの指導、赤ちゃん紙芝居などの上演を 行った。
7 『レクチャーコンサート: ピア ノの音色—ショパンからシェー ンベルクまで—』	共著	2010 年 2 月	立教女学院短 期大学公開講 座, 立教女学院 短期大学・杉 並区教育委員 会主催(東京)	成人向けの公開講座として、ショパン、リ スト、ドビュッシーのピアノ曲の特徴を比 較し、時代背景とともに演奏を交えて解説 した。ピアノ: 巨瀬励起。
8 『親子で遊ぼう—絵本とかみし ばいと音楽と』土曜講座	単著	2010 年 7 月	立教女学院短 期大学幼児教 育研究所主催 (東京)	乳幼児の親子講座として、手遊び、わらべ うたの指導に加え、絵本の読み聞かせの指 導と紙芝居などの上演を行った。
9 『音楽ワークショップ~ミュー ジックシアターを作りましょ う!~』第 8 回保育者のための	単著	2010 年 8 月	立教女学院短 期大学幼児教 育研究所主催	保育者のための研修会として、楽器による 音遊びに基づくオリジナルの音楽劇の制作 発表の指導を行った。

ステップアップ講座			(東京)	
10『親子で遊ぼう—絵本とかみしばいと音楽と②』土曜講座	単著	2010年10月	立教女学院短期大学幼児教育研究所主催 (東京)	乳幼児の親子講座として、手遊び、わらべうたの指導に加え、絵本の読み聞かせの指導と紙芝居などの上演を行った。学生たちによるオリジナルの音楽劇も上演した。
11『クリスマスによせて～聖歌を歌いましょう (オペラ・コンサート付き)～』土曜講座	共著	2010年11月	立教女学院短期大学幼児教育研究所主催 (東京)	成人向けの公開講座として、クリスマスのための聖歌の指導とオペラ・アリアのコンサートを行った。
12『長野ヒデ子さん・長野麻子さん講演会』	共著	2010年12月	四つばの会・水戸市立図書館主催 (茨城)	絵本『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』の紹介と読み聞かせ、子ども向けの呼吸と声のワークショップを行った。
13『ディーター・シュネーベル』eX. experiment	単著	2010年12月	eX. 主催 (東京)	自ら監修と出演を行った演奏会『eX. 15 シュネーベル研究』のプレレクチャーとして、シュネーベルの作曲の徹底分析を行い、解説した。
14『ドイツ3大Bの世界—バッハ、ベートーヴェン、ブラームスのピアノ曲を聴く—』立教女学院短期大学公開講座	共著	2011年2月	立教女学院短期大学・杉並区教育委員会主催 (東京)	成人向けの公開講座として「ドイツ3大B」で知られるバッハ、ベートーヴェン、ブラームスのピアノ曲の特徴を比較し、時代背景とともに演奏を交えて解説した。ピアノ：菅野雅紀
15『ノルウェー音楽の潮流』アンサンブル東風第12回定期演奏会プレトーク	共著	2011年2月	アンサンブル東風主催 (東京)	ノルウェーの現代音楽の作曲家、パフォーマーのリサ・ディランを迎え、ノルウェー音楽の事情を伺うとともに対談した。
16『呼吸と声のワークショップ』	単著	2011年2月	立教女学院短期大学附属幼稚園天使園主催 (東京)	立教女学院短期大学附属幼稚園の園児を対象に絵本『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』の紹介と読み聞かせ、呼吸と声のワークショップを行った。
17『音楽ワークショップ—呼吸ってすばらしい、声ってたのしい!—』立教女学院短期大学公開講座	単著	2011年2月	立教女学院短期大学公開講座、立教女学院短期大学・杉並区教育委員会主催 (東京)	成人向けの公開講座として、絵本『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』の紹介と読み聞かせ、呼吸と声のワークショップを行った。
18『長野麻子講演会～呼吸って素晴らしい、声ってたのしい! すっすっはっはっ わっはっは～』	単著	2011年6月	岡山県国公立幼稚園教育研究会備北支部研修会、岡山県国公立幼稚園教育研究会備北支部主催 (岡山)	保育者の研修会として、絵本『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』の紹介と読み聞かせ、呼吸と声のワークショップを行った。
19『親子で遊ぼう～わらべうたうたいたい～』土曜講座	単著	2011年6月	立教女学院短期大学幼児教育研究所主催 (東京)	乳幼児の親子講座として、月齢に応じたさまざまなわらべうた、遊びの指導を行った。
20『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』第8回外郎売の口上大会	共著	2011年7月	外郎売の口上研究会主催 (神奈川)	外郎売の口上研究会の子どもたちと共同で、絵本『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』の読み聞かせとオリジナルの身振りによる舞台上演を行った。
21『ワークショップ：シュネーベル《マウルヴェルケ》』国立音楽大学集中講義 (作曲特講B)	単著	2011年9月	国立音楽大学主催 (東京)	国立音楽大学の学生に、シュネーベルの音楽劇《マウルヴェルケ》の講義と上演指導を行い、学生たちによる制作発表を行った。
22『親子で遊ぼう～紙芝居と絵本～』土曜講座	単著	2011年10月	立教女学院短期大学幼児教育研究所主催 (東京)	乳幼児の親子講座として、紙芝居の上演と絵本の読み聞かせの他、動物を模倣するリトミックを学生たちのアシスタントのもとに行った。

23『センス・オブ・ワンダー～森の中で自然を感じよう～〈すっすっはっはっ 呼吸はいのちの音』	単著	2011年12月	藤沢市みどりいっぱい市民の会主催（神奈川県）	藤沢市の新林公園内で、子どもたちのための呼吸と声のワークショップを行い、その後、身体や戸外の空気を感じながら散策を行った。
24『〈すっすっはっはっ こ・きゅ・う〉長野麻子ワークショップ』	単著	2012年2月	三鷹市文庫連絡会主催（東京）	乳幼児および小中学生の参加者を対象に、絵本『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』の紹介と読み聞かせ、呼吸と声のワークショップを行った。
25『絵本とうた～読み聞かせとことば、リズムの楽しみ』立教女学院短期大学公開講座	単著	2012年2月	立教女学院短期大学・杉並区教育委員会主催（東京）	親子向けの公開講座として、言葉の音とリズムの楽しさをテーマにさまざまな絵本や歌を紹介し、読み聞かせや歌唱指導を行った。
26『スペイン音楽の潮流』アンサンブル東風第13回定期演奏会プレトーク	共著	2012年2月	アンサンブル東風主催（東京）	スペインの現代音楽の作曲家ファビアン・パニセッコを迎えて、20世紀以降のスペインの事情について伺い、対談を行った。
27『ことばと音楽と呼吸』宇都宮共和大学子ども生活学部平成24年度第5回子育て支援研究センター公開講座	単著	2012年12月	宇都宮共和大学主催（栃木）	成人向けの公開講座として、音楽における言葉や音とその表現における呼吸や声の大切さを講演し、ワークショップを行った。
28『作曲家として、女性として』アンサンブル東風第14回定期演奏会プレトーク	共著	2013年2月	アンサンブル東風主催（東京）	韓国の現代音楽の作曲家林志宣と日本の金子仁美を迎えて、作曲家としての女性の生き方や音楽観を伺い、対談を行った。
29『親子リトミック～てくてく期』	単著	2013年4月～2014年3月（毎月1回開催）	喜連川児童センター主催（栃木）	1～2歳の乳幼児とその親を対象としたリトミック講座。即興によるオリジナルのピアノ伴奏に合わせて動いたり、わらべ歌や単純な打楽器を用いて遊んだりした。
30『あかちゃんと遊ぼう』	単著	2013年6月	いわむらかずお絵本の丘美術館主催（栃木）	乳幼児向けの音楽と遊びの講座。美術館の館内で絵本原画の鑑賞、絵本の読み聞かせ、歌や楽器の音遊びを行った後、屋外に出て、自然の音や匂い、色を感じる体験をした。
31『呼吸と声、音楽でつなぐ子どもとのふれあい』	単著	2013年6月	さくら市たいよう保育園主催（栃木）	保育園の保護者会の講演として、家庭で楽しめる音楽として、呼吸や声の表現による遊びを、実践を交えて紹介した。
32『親子参加講座：呼吸のワークショップ』	単著	2013年10月	瀬戸市役所主催（愛知）	親子向けの呼吸と声のワークショップを乳幼児の部と小学生の部において、行った。
33『ジャズ、タンゴ、そして・・・』アンサンブル東風第15回定期演奏会プレトーク	共著	2014年2月	アンサンブル東風主催（東京）	ジャズ・サクソ奏者MALTAと作曲家松下功を迎え、ジャズを始めとするポピュラー音楽の演奏やその聞き方について伺い、対談した。
34『親子リトミック』	単著	2014年4月～2014年10月（毎月1回開催）	RASH主催（栃木）	在住する栃木の地元の育児サークルの親子向けのリトミック講座。1～2歳の乳幼児を対象に、即興によるオリジナルのピアノ伴奏に合わせて動いたり、わらべ歌や単純な打楽器を用いて遊んだりしている。
35『長野ヒデ子と長野麻子 絵本ライブ&講演会「エホン ごほんばっくん」なつよこいこいおはなし会	共著	2014年7月	青森県立美術館パフォーミングアーツ推進実行委員会・青森県立美術館主催（青森）	夏休みの親子向けのイベントとして、絵本『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』の紹介と読み聞かせ、呼吸と声のワークショップを長野ヒデ子と共同で行った。
36『やってみよう！声遊び・音遊び』第12回保育者のためのステップアップ講座	単著	2014年8月	立教女学院短期大学幼児教育研究所主催（東京）	保育者のための研修会として、保育現場で役立つ呼吸と声のワークショップを行い、楽器による音遊びとオリジナルの音楽劇の制作発表を指導した。
37『わらべうたとリトミック』土曜講座	単著	2014年9月	立教女学院短期大学幼児教育研究所主催（東京）	3歳～5歳の幼児と保護者を対象とした親子講座。わらべうたによるふれあいと動物を模倣するリトミックを学生たちのアシストのもとに行った。

38 『あかちゃんと遊ぼう』	単著	2015年6月, 8月9月, 11月	いわむらかずお絵本の丘美術館主催 (栃木)	乳幼児向けの音楽と遊びの講座。美術館の館内で絵本原画の鑑賞、絵本の読み聞かせ、歌や楽器の音遊びを行った後、屋外に出て、自然の音や匂い、色を感じる体験をした。
39 『ワークショップ：シュネーベル《マウルヴェルケ》』	単著	2015年7月, 9月, 10月	国立音楽大学主催 (東京)	国立音楽大学の学生に、シュネーベルの音楽劇《マウルヴェルケ》の講義と上演指導を行った。
40 『ワークショップ：呼吸と声から生まれる音楽』	単著	2015年10月	公益財団法人音楽文化創造主催 (栃木)	「FORUM in 国際音楽の日宇都宮 2015」のゲスト講師として、呼吸と声の発声および表現のワークショップを行った。
41 『舞あそぶ音に』アンサンブル東風第17回定期演奏会プレトーク	共著	2016年2月	アンサンブル東風主催 (東京)	尺八奏者の藤原道山と作曲家松下 功を迎えて、日本の伝統音楽と現代の音楽の演奏の比較について伺い、対談した。
42 『本で紡ぐ・カラダで奏でお泊まり会』平成28年子どもゆめ基金助成活動 音読・朗読・絵本の読み聞かせ・身体運動プロジェクト2016	共著	2016年11月	NPO 法人南薩のまなざし (鹿児島)	絵本の読み聞かせと身体表現をテーマにした幼稚園児および小学生向けの講演とワークショップを長野ヒデ子ほか3名の講師とともにいった。
43 『時代の潮流—ミヨーとシュトックハウゼン』アンサンブル東風第18回定期演奏会プレトーク	共著	2017年3月	アンサンブル東風主催 (東京)	ミヨーとシュトックハウゼンの人柄、作品、演奏についてピアニストの大須賀かおり、ホルン奏者の堂山敦史、作曲家の松下功を迎え対談を行った。
44 「赤ちゃん絵本に求められるものとは？—『まんまん ぱっ!』の制作現場から—」	単著	2017年6月	赤ちゃん絵本研究會主催 (東京)	自著『まんまん ぱっ!』の制作意図と赤ちゃん絵本としての新たな意義を言葉と音楽、視覚の関係性の視点から、読み聞かせの実演を交えて発表した。
45 『彩りの音へ』アンサンブル東風第19回定期演奏会プレトーク	共著	2018年2月	アンサンブル東風主催 (東京)	作曲家小坂咲子、松下 功を迎えて、両作曲家の作品の特徴と聴き所について伺った他、ジュリアン・ユー、ヒンデミットの作品の特徴と聴き所について解説を行った。
46 『音楽は感情の言葉～呼吸と声で表現しよう』オルフ音楽教育研究会例会	単著	2018年6月	日本オルフ音楽教育研究会主催 (東京)	オルフ・シュールヴェルクとの関連から、作曲家シュネーベルの音楽作品と思想、そこから触発を受けた長野麻子の音楽活動である呼吸と声の研究、絵本作品を紹介、解説し、呼吸と声の表現のワークショップを行った。
47 「すっちはいて声をだそう～息・声・歌：呼吸をすることから始めよう～」	単著	2019年5月	愛知県私立幼稚園連盟地区別講座・一宮地区、一宮私立幼稚園連合會主催 (愛知)	幼稚園教諭を対象とした研修会の講師として、自著の絵本の読み聞かせと紙芝居の上演、保育で歌われる子どもの歌の歌唱とともに、呼吸と声の表現の魅力について講演を行った。
48 「声は呼吸から生まれる」	単著	2021年4月	21世紀紙芝居学校、紙芝居文化推進協議會主催 (神奈川県)	21世紀紙芝居学校の講師として、自著の絵本の読み聞かせと紙芝居の上演およびそれらにまつわる呼吸、声、言葉の表現について講演を行った。
49 「何気ない日常から生まれる絵本と紙芝居」	共著	2021年11月	東京成徳大学子ども学部公開講座、東京成徳大学子ども学部主催 (東京)	長野ヒデ子とともに講師を務め、オンライン配信を行った。自著を中心とした絵本と紙芝居の創作と読み聞かせ・上演の方法について対談形式で講義を行った。

50 「赤ちゃん絵本と音楽～まんまんぱっ！」	単著	2023年7月	郡山市中央図書館レクチャーコンサート「こども・お母さん・音楽」郡山市中央図書館主催（福島）	幼児とその保護者を対象に著書の赤ちゃん絵本『まんまんぱっ！』の読み聞かせを通して、乳児の言葉の特徴と音楽の関係、乳児への絵本の読み聞かせの方法などについて講演した。
51 「お母さんと赤ちゃんの世界-南吉の詩から生まれた絵本『てんごく』」	共著	2023年8月	新美南吉顕彰会・半田市教育委員会主催（愛知）	長野ヒデ子と講師を務め、新実南吉の詩に基づく長野ヒデ子作の絵本『てんごく』（のら書店、2023年）に見る母子関係を出発点に、長野ヒデ子、長野麻子の著書における母子の関係性とその表現について対談を行った。
52 「トン・パン・ポン！つくってならそう さわってあそぼう」	共著	2023年10月	東京成徳大学子ども学部公開講座、東京成徳大学子ども学部主催（東京）	味府美香准教授、藤田寿伸准教授とともに、未就学児とその保護者を対象に音楽と造形の表現活動を実施し、音楽部門を担当した。乳幼児が扱うことのできる打楽器を素材にオリジナルの物語と音楽に沿って、表現活動を指導した。
53 「長野ヒデ子・麻子講演会」	共著	2024年6月	黒姫童話館主催（長野）	『すっすっはっはっ こ・きゅ・う』などの長野ヒデ子との共著の絵本をはじめ、絵本の創作と音楽の研究との関わりについての講演を絵本の読み聞かせや声と呼吸の表現の実践を交え、講演した。
54 「長野麻子氏講演会：こどもとことば～音楽と絵本とともに～」	単著	2024年10月	鎌倉市図書館主催（神奈川県）	子どもの言葉の発達をテーマに音楽と言葉の関係について、自著の絵本の読み聞かせと紙芝居の上演、子どもの歌の歌唱の実践を交えて、講義を行った。
55 「おまつりわっしょい トン・パン・ポン！」	共著	2024年10月	東京成徳大学子ども学部公開講座、東京成徳大学子ども学部主催（東京）	味府美香教授、羽岡佳子准教授とともに、未就学児とその保護者を対象に和太鼓を用いた音楽と身体表現活動を実施した。
56 「おまつりわっしょい トン・パン・ポン！2025」	共著	2025年10月	東京成徳大学子ども学部公開講座、東京成徳大学子ども学部主催（東京）	味府美香教授、羽岡佳子准教授とともに、未就学児とその保護者を対象に和太鼓を用いた音楽と身体表現活動を実施した。前年度の講座の構成や内容を一部変更し、改善を図った。
56 「おまつりわっしょいトンパンポン！」	共著	2025年11月	東京都立北療育医療センター主催（東京）	2025年度子ども学部公開講座で実施した同タイトルの講座を障がいのある子どもたちと保護者を対象に実施した。子どもたちの状況に合わせて、活動内容と方法に工夫を行った。
57 「音楽ワークショップ：紙を使って」	共著	2026年1月	成徳幼稚園主催（東京）	成徳幼稚園の年長児を対象に、ヴァイオリン奏者の中島久美、ピアニストとともに、1枚の紙からさまざまな音を作り出し、音楽を創造するプロセスを実践した。

(注) 「研究業績等に関する事項」には、書類の作成時において未発表のものを記入しないこと。